

鵜川・ピリカ・プロジェクト

～美しい川をめざして～

「ピリカ」とは、アイヌ語で「美しい、良い」などを意味する言葉です

第12回「鵜川・ピリカ・プロジェクト」が開催されました。

～美しい川をめざして～

平成21年3月3日(火) 18:00より、第12回「鵜川・ピリカ・プロジェクト」が開催されました。魅力ある鵜川を未来へ引き継ぐための想いである『美しい川宣言(案)』。この目標達成に向けて取りまとめたアクションプログラムの位置付けについてさらに議論がされました。10名の委員が出席しました。

意見交換会(抜粋)

1. 開会挨拶

- * 議論がだんだん煮詰まって形になってきているのを実感しており、これらが地域の未来を開く一つの記念になるのではないかと感じている。
- * たくさんの意見が集約されて、本日、私どもの目的としていた「美しい川の宣言」の案が出てくる。
- * 会議の中で修正を加えながらより多くの皆さんに親しまれ、活用される愛護宣言になればいい。

2. 第12回鵜川・ピリカ・プロジェクト会議

- * 本日は、目標と宣言案について、「美しい川の宣言(案)」の構成について、前回の会議で取りまとめたアクションプランについて、議論いただきたい。
- * 宣言の目標案も含めて、事務局から提示されているが、いや違うとか、まだ加えたいということも含めて議論させていただきたい。

宣言の主語について

- * 宣言の主語は何なのか、この宣言は委員一同の宣言なのか、鵜川にかかわる人々全員の宣言の案として出すのかこのあたりを議論していくべき。
- * 世の中にPRするためにも、「わたしたち」を「鵜川の民」「鵜川族」「鵜川人」とか言葉を定義してはどうか。
- * ピリカ・プロジェクトの宣言にとどめるのではなく、流域住民がこぞって宣言するようなものになるのが理想である。
- * 流域、地域の人方にわかってもらうということであれば、宣言という部分はとりあえず今は案になると思う。
- * 会議の中で宣言してそれで終わりではなく、魂を入れるような仕組みをどう構築していくかを議論していかなければならない。
- * 主体は町民、流域住民で、プロジェクトはそこに発信していく役割も持っている。
- * 「地域の方」が主語であるべき。
- * 鵜川のファンや鵜川のサポーターができることが目標になってくる。
- * もしも可能であれば、「鵜川を愛するすべての方々」、あるいは動物も含めて「鵜川を大好きな命たちがみんな」となるとすごくいいと思う。
- * むかわ地区の住民はこのほか一級河川鵜川に対する愛着というのがある。

- * 「私たち」という言葉の中に流域住民やプロジェクトなどすべてが入ってくるので、「私たち」でいいのではないかな。
- * 町民に限らず、鶴川を愛する人たちにも門戸を広げられるとか、そのような発信の仕方がいいのかなと思う。
- * すべての人たちに提案してそこからまたコメントを頂いて、きちんとした宣言になっていくのではないかな。

宣言文について

- * 人間の立場でなく川の立場でと視点を変えてみると、どこにもないような宣言の仕方ができると思う。
- * (この宣言文は) プロジェクトに携わっている人がみるとすばらしいと思うが、一般の人に見せるにはインパクトがあって、これはなんだろうと目が行って欲しくない。
- * あまり携わっていない人たちが見たときの提言として、もうひと工夫あったほうがより認識度が高まる。長すぎるのでは。
- * ひとつは、「美しい川の宣言」というタイトルをインパクトのあるものにする。
- * シンボルマークやキャッチフレーズを出して、「私たち鶴川の民」とか、「ピリカ」とかインパクトのある言葉を使う。
- * 解説のところがわかりにくいので、小学生ぐらいが呼んでもわかるほうがいい。
- * エキスの部分だけを抜いていくようにして、数行でとめて、どんなことがこれから行われるのだろうかというような疑問が湧く程度がいい。
- * 「みんなでやるんだ」ということを前面に出すためには、「みんな仲間にならないか」というのを最初に出して引きつける。
- * 宣言を提言に置き換えて住民に振るためのアクションプランをわれわれで練り上げて実施する。その結果、流域住民も含めてこれに大きく賛同する中身が出てきた段階で宣言するというのが一番理想となる。
- * 宣言すると同時に、プロジェクトは何月何日にごみ拾いや土嚢積みをしますので集まってくださいとか、イベントを提言と一緒に出すのも面白い。
- * 視点も決まったので、私たちも2行くらいを考えて出してみたほうがいいのではないかな。

アクションプランについて

- * 人的、物的な部分でカバーできる範囲のアクションプランであればいいが、予算がついて回るような中身をどうクリアするのかの裏付けを認識しておかなければならない。
- * お金だけの支援じゃなくて、どこに相談すればいいんだということになるため、相談を受ける窓口はどこか、その辺をちゃんとしておかないとただ提言で終わってしまう。
- * いろんな制約を考えると、実現できることの方が少なくなってしまふ。それよりも、もしこんなことができたらという夢が、色々な人に伝わって鶴川そのものを理解してもらえという形に抑えておいてはどうか。
- * 夢プランみたいにして、一覧表のほうがソフトで夢があるのではないかな。
- * 注意しなければならない部分については注意しながら宣言案を作り上げるように、構成も含めて事務局の方で整理させていただいて、アクションプランをより具体性をもたせる、わかりやすくまとめるというのでいいのかなと思う。
- * 今年は具体性を詰められなくてアイディアリストを載せるだけになっているが、具体性をどこまで詰めていくかは残された課題である。
- * 提言の内容がもう少し広く流域住民に伝わり、流域住民が主体になるような宣言文が出来上がることを期待しながら、今日の会議を終了させていただく。